

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

2025年4月26日(土) ~ 27日(日)

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE 第2戦

SUZUKA 5時間レース 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

■ 荒れたレースに臨機応変に対応し予選2位から逆転優勝 ■

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

(山崎 学 / 吉田広樹 / 服部尚貴 / 野中誠太)

決勝: 1位 (119周, 5時間00分48秒860)

予選: 2位 (合算タイム: 4分20秒035)



スタート時、#22 ポルシェに抜かれて3位に後退します。23周目、#22 ポルシェが#885GR Supraを抜いたため、再び#885GR Supraを追う展開に。吉田選手は集中力を切らさずに周回を重ねますが、23周目、25周目、29周目と立て続けにFCYが導入され、当初の予想ほど、周回数が伸びません。35周目に#22 ポルシェ、40周目に#885GR Supraがピットに入ったため、吉田選手はトップへ。吉田選手も翌周、ピットに入りますが、当初の計画を変更し、山崎選手に交代。第1戦のRace1と同じく、3番手の服部選手のステイントをショートにし、全体のピットイン時間を短縮する作戦です。山崎選手は給油とタイヤ4本交換を行いピットアウト。事前の準備をしっかり行っていたため、スタッフ全員がノーマスで作業を終えています。

コースに復帰した山崎選手の順位は2位。トップは#5GR Supraで、#885GR Supraは山崎選手の3秒後方を走っています。#885GR SupraにはBドライバーが乗っており、44周目に山崎選手と#5GR Supraを抜きトップへ。翌周、山崎選手も#5GR Supraを抜きますが、トップとの差は大きく広がっていきます。73周目、Aドライバーの乗車義務時間をクリアした山崎選手がピットイン。この時点で#885GR Supraとの差は1分ほどです。服部選手に交代し、給油とタイヤ4本交換を行ってピットアウト。店舗メカニックの素早い作業が場内モニターに映し出されます。コースに復帰した服部選手の順位は2位。トップは変わらず#885GR Supraですが、80周目にピットインを行い、両者の差は13秒まで縮まっています。服部選手は11周走行した後、84周目にピットイン。野中選手に交代し、作戦通り、短い給油のみでピットアウトします。コースに復帰した野中選手の順位は3位。トップはAドライバーが乗る#885GR Supra、2位は#22 ポルシェですが、どちらも最後のピットインを残しており、野中選手に有利な状況です。91周目、#22 ポルシェのピットインにより2位へ。野中選手はユーズドタイヤで走行しており、余裕のある状況ではありませんが、1分以上あった#885GR Supraとの差を、みるみるうちに詰めていきます。112周目、#885GR Supraがピットイン。Cドライバーに交代しますが、差は45秒近くまで広がり、十分なマージンを得ます。野中選手は抜群の安定感を見せ、トップチェッカー。チーム力で逆転に成功し、開幕戦のRace2に続く、2連勝を飾りました。



DRIVERS VOICE

山崎 学選手

このレース展開は想定していたので、その通りに乗る順番が変わりました。チームが用意した作戦に幅があり、準備もしっかりできたので、このような結果につながりました。自分のペースには用心しすぎている部分もあり、ちょっと不満もあるのですが、チームの作戦と他のドライバーの本当にプロフェッショナルな走りに助けられました。今日はここにいるだけで勝たせてもらったという感じです。今回の優勝でさらに重たくなりますが、次の24時間はなんとかこらえて勝ちたいと思います。

吉田広樹選手

予選1位の885号車についていたかと思っていたのですが、FCYが結構入って、リスタートのたびにポルシェが来て、最終的には抜かれてしまいました。全体的な流れを見ると885号車についていくのがポイントかなと思っていたので、最後まで1秒差ぐらいで走ることができ、良かったと思います。チームの作戦とメカニックのタイヤ交換が本当にうまくて早く。それに加えて、他のドライバーのみなさんが各々の役割をしっかりと果たしてくれたので、そのおかげで前に出られたのかなと思います。

服部尚貴選手

FCYがたくさん入る中、臨機応変に作戦を変え、チーム力で勝利できました。全クラス同時に走っていますから、FCYが多くなるのはしょうがなく、それも頭に入れて走っていました。コース上の速さというよりも、レースの作戦とピットのタイヤ交換も含めてすごく速かったので、そういう部分で逆転できたと思います。次の24時間はかなり重たい状態でのレースになるので、今もみんなでどうしようかと考えているぐらいです。24時間をとらないとタイトルは難しいので、次も勝ちたいです。

野中誠太選手

とにかく最初はプッシュして差を縮めて、プレッシャーをかけたかったので、特に頑張りました。先の見えない相手との間に1分以上の差がありました。どんどん縮まっていくことで自分のテンションもあがり、最後まで走れました。もちろん、タイヤはどんどん苦しくなりましたが、それも想定内でした。落ち着いてドライビングを合わせることができ、いい走りことができました。次戦はさらに性能調整が厳しくなると思うので、ミスのないように走り、また優勝できるように頑張りたいと思います。

ST-Z クラス 決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2 (GR Supra GT4 EVO2)	119周
2位	#885 シェイドレーシング GR Supra GT4 EVO2 (GR Supra GT4 EVO2)	119周
3位	#22 EBI GROUP Cayman GT4 RS CS (ポルシェ ケイマン GT4 RS CS)	119周
4位	#26 raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z NISMO GT4)	118周
5位	#25 raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z NISMO GT4)	118周
6位	#21 Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4 (メルセデス AMG GT4)	118周

出走12台 トップ6まで

ST-Z クラス ポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉 Green Brave	64
2位	885	SHADE RACING	51.5
2位	26	TEAM ZEROONE	47
4位	25	TEAM ZEROONE	27
5位	21	Hitotsuyama Racing	23
6位	34	TECHNO FIRST	20

上位6位まで

次戦予告 5月30日~6月1日 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社アルシエ



株式会社エイテック



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リバイバルマネジメント



株式会社リビコー